

項目	自己評価
短大組織マネジメント	<p>(1) 教学体制・人材の強化と教育力の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習成果の向上に向け、教育課程の検討を行った。 2) GPAの活用、授業アンケート等をはじめとする各種アンケートを基に、FD及びSDを通じてPDCAサイクルを実施した。 3) 実学重視徹底のためのFDを実施した。 <p>(2) 子ども園、アフタースクール、プライマリースクール、セカンダリースクール、高校クッキングコース、高校医療理系コース等との連携強化による特色作り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 併設高校との連携会議の定例化、連携強化を図った。 2) 子ども園との連携強化(児童生活専攻に記載)を図った。 3) アフタースクール、プライマリースクール、セカンダリースクール、中野区とも連携を強化し「食の新渡戸」をアピールした 4) 中野区の健康・健診事業に協力し、臨検をアピールした。 <p>(3) 令和2年度証評価提出用報告書作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和2年度 認証評価報告書を作成し、一般財団法人大学・短期大学基準協会へ7月に提出。令和3年3月に「適格」認定を取得した。 <p>(4) 進路指導強化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 個々の学生の就業意欲を高め、求人企業との連携を強化した。 2) 就職先企業に対するディプロマポリシーに照らしたアンケート結果を活用した。 3) 令和3年度「キャリアデザイン」の正規授業科目導入を図った。 <p>(5) 令和3年度学生募集活動の活性化による生活学科食物栄養専攻入学者数増加、臨床検査学科の定員確保に向けた施策展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 入学生数増を目的とした学生支援制度の周知を行い、効果を得た。 (特待生制度の拡充、遠隔地入学者支援制度、学費月額分納制度、入試無償化、学内ジョブ機会の拡充、低所得家庭への公的経済支援制度誘導を行った。) 2) 法人企画・広報担当職員と学生募集スタッフの連携による戦略的募集活動の強化を図った。 (食物栄養専攻のD会議、臨床検査学科のM会議の活用及び他短大との差異化) 3) 学生を主体とした効果的なオープンキャンパスへの改善、志願者へのきめ細かい情報提供を進めた。 4) オンラインを活用したオープンキャンパス、個別相談、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試を実施した。 5) 指定校等への訪問、DM等による情報の共有、新規指定校(食物栄養学科:26校、臨床検査学科92校)設定を行った。 6) ホームページのスマホサイト化へ改善と最新情報の提供、ホームページ・コンテンツの強化を図った。 7) WEBサイト閲覧者解析による潜在層への効果的な入試広報活動を展開した。 8) 公式SNS運用を促進した。 <p>(6) 学生・教職員ともに笑顔の学校づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の働き方改革:残業時間(目標:月平均20時間以内)は25時間であった。

項目	自己評価
生活学科・専攻科	<p>〔食物栄養専攻・専攻科調理先専攻〕</p> <p>(1) 社会人としての基礎力の向上及びそれに立脚した高度な調理技術を持った人材の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養士としての知識を生かせる人材の養成に努めた。 2) 優れた専門職教員（実務家教員を含む）及びプロのシェフ等外部講師による実学指導を強化した。 3) 調理基礎技術指導を強化した。 4) 令和3年度学園連携食育プロジェクト対応科目導入を準備した。 5) 令和3年度基礎教育科目関連カリキュラム改変科目の導入を準備した。 6) リメディアル教育（達成度別指導）及びマナー指導を強化した。 7) キャリア支援を強化した。 8) 求人企業との連携を強化した。 <p>(2) 調理室及び厨房等での実学重視による実践的技術の習得</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 第2カフェ・調理室における調理実習・給食管理実習の内容を充実した。 2) 専門性を向上させる科目（フードプロデュース実習、フルーツカット実習、製菓・製パン実習等）の内容を充実した。 <p>(3) 理数系基礎学力の底上げ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) リメディアル教育の内容を見直し、理数系基礎学力をレベルアップした。 <p>(4) 学科名称変更に向けた準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和3年4月1日付で生活学科食物栄養専攻から食物栄養学科への名称変更を届出した。 <p>〔児童生活専攻・専攻科児童生活専攻〕</p> <p>(1) 子ども園教員と専攻教員の行き来を促進し、実学を重視した教育を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子ども園教員との行き来を積極的に展開し、インターンシップ等の内容を充実させた。 2) 「座学から実学へ」を標榜するカリキュラムを編成した。 <p>(2) 実学重視により社会人基礎力、専門知識に加え応用力実践力に富む幼稚園・保育所向け人材の養成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子ども園との連携による専門性の向上（前期に重点化）を図った。 2) 子ども園教員による講義を行った。 3) 実習の事前・事後指導の充実を図った。 4) 子ども園の催し（夏祭り、運動会、クリスマス会等）に参加協力した。
臨床検査学科	<p>(1) 高い国家試験合格率と就職内定率の維持</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カリキュラムの一部変更、授業時間数増を図った。 2) 国家試験に備えた学生指導方法の改善（チューターの充実、早朝試験等）を図った。 3) 過去3年間の入学者の成績、適性を早期に検証して活用した。 4) 新渡戸フォリオの活用によるラーニングアウトカム確認を行った。 5) 令和2年度入学生から教育課程を変更、学習時間を増加し効果的履修モデルを構築した。 6) 令和2年度臨床検査技師教育指定規則変更に対応した授業カリキュラムを準備した。 <p>(2) コミュニケーション能力のある臨床検査技師の育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療人としての基礎力を磨くためのゼミ活動を活性化した。 2) 医療人としての資質向上を指導した。 3) 臨地実習病院の指導教育者によるコミュニケーションに関する講話及び接遇講演を行った。 4) 模擬患者参加によるコミュニケーション能力向上実習を実施した。 5) 令和2年度入学生から教育課程に「コミュニケーション演習」を正課授業科目として組み込んだ。 <p>(3) ベテラン・若手のバランスの取れた優秀教員の確保（非常勤講師を含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の指導力と能力向上のために更なるFDの活用を促進した。 2) 専門領域に合わせた幅広い専任教員の確保に努めた。 <p>(4) 一流病院として評価の高い実習病院の確保</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨地実習病院幹部及び担当者との連絡を密に連携した。

項目	自己評価
研 究 所	<p>(子ども教育研究所)</p> <p>(1) 研究紀要発行の継続</p> <p style="padding-left: 20px;">1) 各教員の研究成果の発表を行った。</p> <p>(臨床検査研究所)</p> <p>(1) 新渡戸文化短期大学学術雑誌第11号へ2名の教員が投稿した。</p> <p>(2) 研究員による研究報告会を開催した。</p> <p>(新渡戸・森本研究所)</p> <p>(1) 新渡戸稲造と森本厚吉に関する資料および情報の収集</p> <p style="padding-left: 20px;">1) 関係団体、関連施設等の最新情報を更新した。</p> <p>(2) 収集資料の整理並びに研究所組織の改編</p> <p style="padding-left: 20px;">1) 保管資料の確認と整理を行った。</p>